



花のある 空間

大高 令子

フリュイ・ルージュの コンポジション

今月の花材

スズバラ・クラブアップル
(真っ赤な実) (緑がかった赤い実)

秋紫陽花・ケイトウ
(緑色の花) (黄色い花)

ビバーナムティナス・丸葉マンサク
(青い実をつけた緑色の葉) (紅葉した葉)

秋深まる11月。

野山を歩いていると、花が咲き終わったあとに大きく膨らんだ赤い実が、まるで宝石のように光り輝いているところを見かけます。

今回は、そんな赤い実(フランス語で「フリュイ・ルージュ」)を組み合わせて(フランス語で「コンポジション」)、季節の色を楽しみましょう。

まず、器に給水性スポンジをセットします。

器は写真のように陶器でも、また自然素材で編まれたバスケットなどでも野山の雰囲気よく合います。

次に、全体のクッションとして、緑色の葉をたくさん付けている常緑のビバーナムティナスを挿します。

また、面を埋めるようにボリュームのある秋紫陽花とケイトウを挿していきます。

そして、紅葉した丸葉マンサクをアクセントに加えたうえで、全体に

スズバラとクラブアップルの赤い実を挿して完成です。

赤い実は、まばらにせず、まとめて挿すと、存在感が増します。

紅葉した葉は、次第にパラパラと落ち始めますが、そんな葉も器のふもとと一緒に飾っておくと、季節感が色濃く表現できます。試してみてください。